ボランティア活動報告 2015

『復興大学・現地実習』

日時：2015 年 6 月 14 日（日）
場所：閖上地区、愛島東部仮設

復興大学とは、県内の学生を対象とした、地域の復興に関わり学びを重ね、新生を担うリーダーを育てる教育プログラムです。経済学や科学技術など様々な分野を学び、災害時などの未知の問題に柔軟に対応できる人材を育てています。今回の現地実習では、大学 1 年生から 4 年生まで約 20 名が名取市を訪れ、東日本大震災から 4 年たつ復興の現状を視察しました。

午前中はバスで閖上地区に向かい、日和山と閖上中学校を訪れました。語り部である長沼さんから、津波が町を襲った瞬間や、避難先での様子、住み慣れた土地への思いなどを聴くことが出来ました。震災によってもたらされた悲劇を繰り返さないために、どうすれば良いのか。学生たちひとりひとりが、今後の課題として胸に刻みました。

午後からは尚絅学院大学の学生と合流し、愛島東部仮設の方々との交流会が開かれました。震災当時の体験や、大学の話など、話題は尽きません。後半には、仮設住宅に住む高橋久子さんから震災の経験を題材にした詩を聴きました。多くの方が、語り部や執筆の活動を通し、つらい記憶と対峙しています。少しでもその思いに寄り添えるよう、学生たちは真剣な様子で聴いていました。現地実習に協力して下さった皆さん、有難うございました。

☆ボランティアチームTASKI　交流のひとコマ☆

・尚絅学院大学からは、ボランティアチーム TASKI の 1 年生が 6 名参加し、復興大学のメンバーと共に愛島東部仮設で活動をしました。写真と参加学生の感想をご紹介します。

↑愛島ダンサーズの方々の掛け声のもと全員でズンドコ節。
突然のダンスに戸惑いながらも良い笑顔です。

学生の声

・テレビ等を通してしか当時のことを知る機会はなかったので、当時の出来事を知る機会に恵まれてよかったです。
・愛島ダンサーズさんは皆笑顔で踊っているので、こちらも自然と笑顔になりました。
・仮設の皆さんに声をかけたり、復興大学の皆さんと交流するにつれて以前より積極的に動いたり、固くならないで楽しくお話が出来たと思います。

（健康栄養／現代社会学科・1 年生）

←愛島仮設、集会所の玄関にお花が植えられています。その他敷地内にある畑では、ナスやトマトといった沢山の野菜を育てています。

→学生たちの振り返りの様子をこっそり撮影。
カメラに気が付かないくらい集中しています！